

JaSST '26 Hokkaido (2026/07/24)

QAロールのスキルアセスメントを 作って終わりにしないための運用実践

かとあず (@kato_az)

_KNOWLEDGE WORK

前回発表からのアップデート

JaSST '24 Hokkaido発表後の運用フェーズに焦点をあてる

QAロールのスキルアセスメントの試行と キャリアラダーの構築

ソフトウェアテストシンポジウム 2024 北海道

2024年8月23日(金) @札幌コンベンションセンター

株式会社ナレッジワーク QAエンジニア 河野哲也 / tettan (@TetsuayaKouno)

_KNOWLEDGE WORK

出典: JaSST '24 Hokkaido 発表資料「QAロールのスキルアセスメントの試行とキャリアラダーの構築」

はじめに

本発表のサマリー

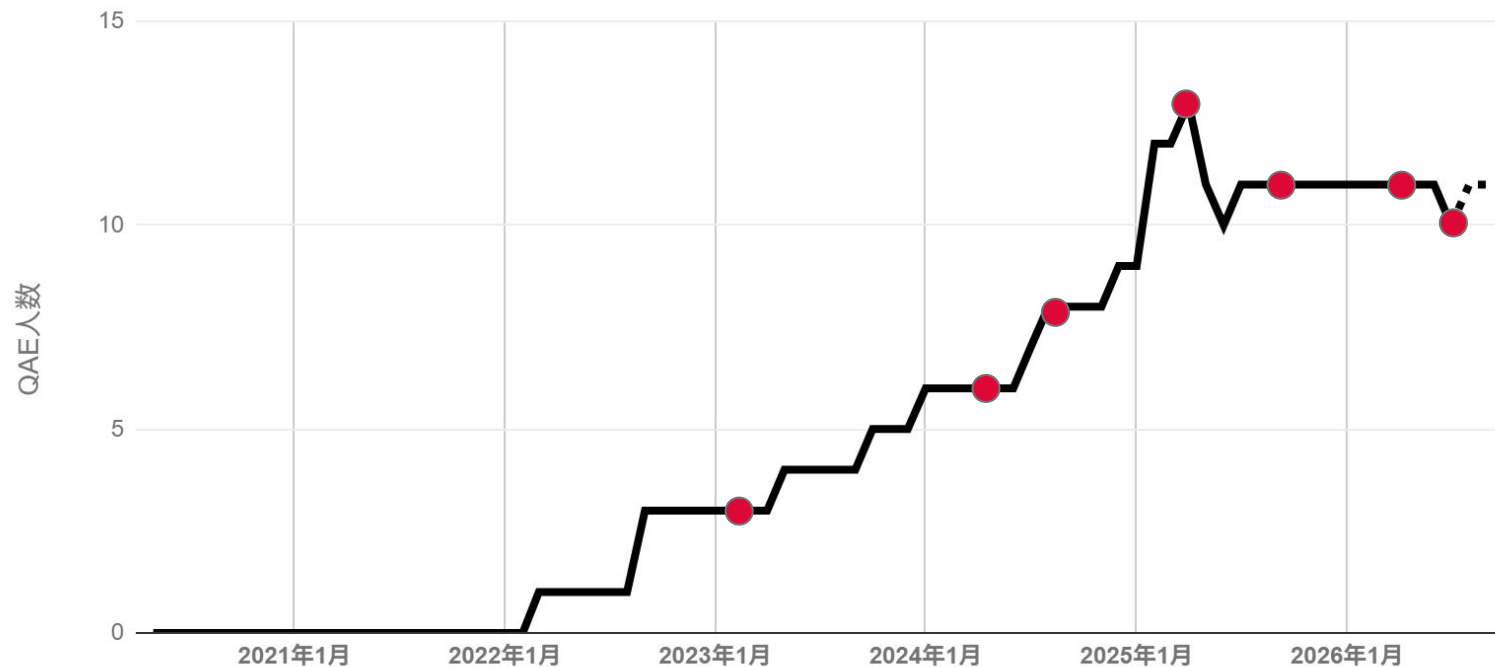
_KNOWLEDGE WORK

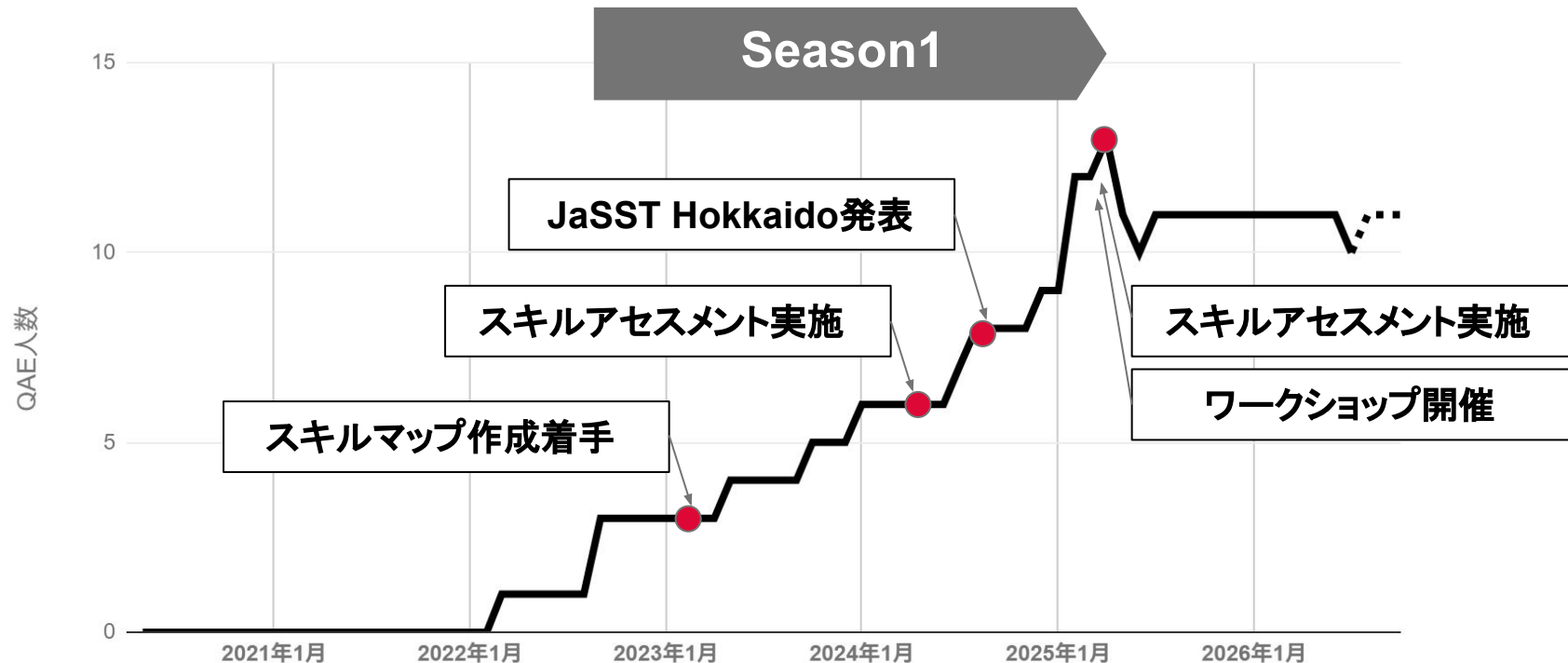
- QAに関わる職種(QAロール)を対象にした取り組み
 - QAロール:主にQAエンジニアやQAマネージャ
- QAロール向けのスキルアセスメント
 - スキルマップの設計とアセスメントシートの作成
- スキルマップによるQAロールキャリアラダーの構築
 - QAロールのラダーの定義
 - 各スキル難易度に基づくラダーの設計
- 試行と本取り組みの評価
 - スキルアセスメントとラダーにおける自身のポジションの認識
 - アンケートによる有効性の評価

© Knowledge Work Inc.

2

出典:JaSST '24 Hokkaido 発表資料「QAロールのスキルアセスメントの試行とキャリアラダーの構築」

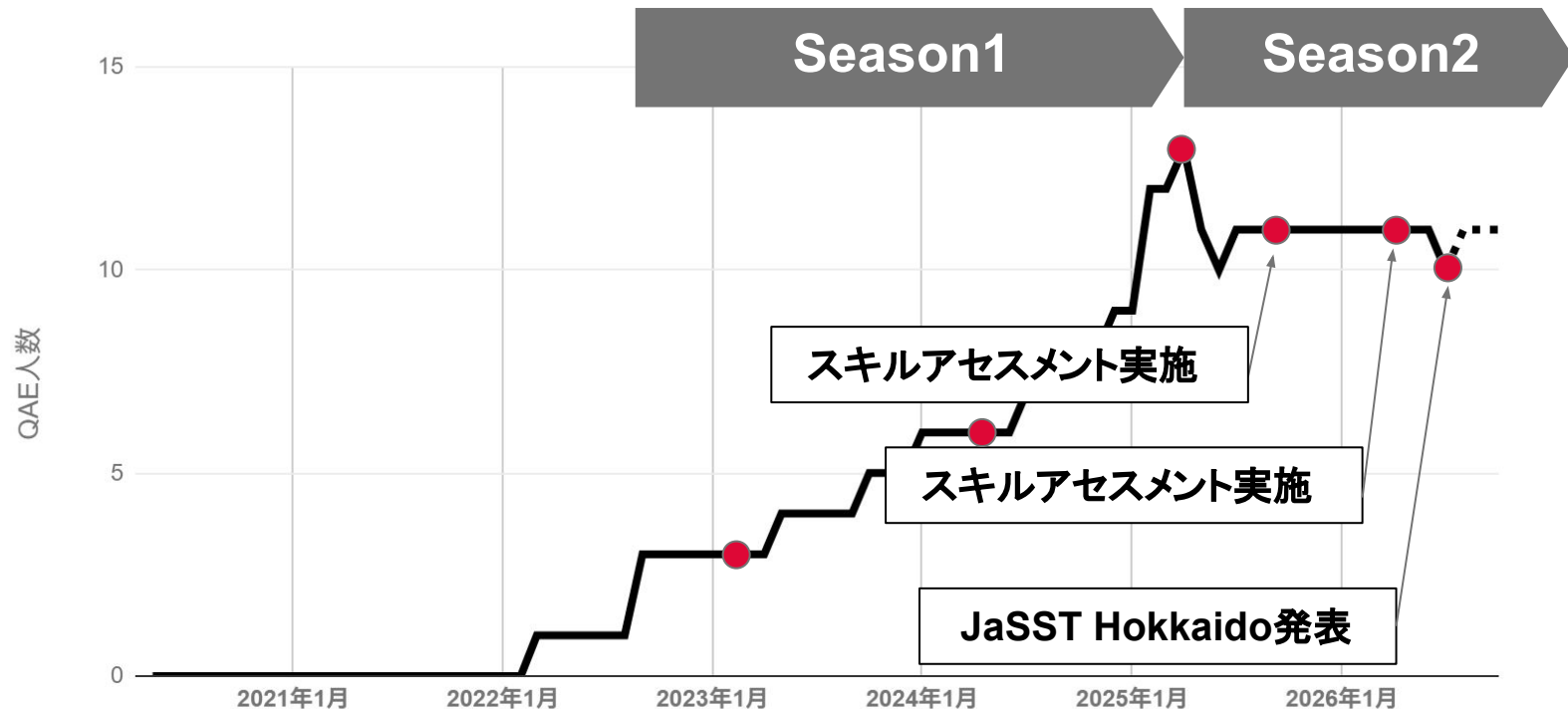




かとあず(@kato_az)

- 株式会社ナレッジワーク QAエンジニア
 - 2025年2月入社
 - スキルアセスメントの運営を引き継いだ
- 北海道札幌市出身





QAロールのスキルマップ

_KNOWLEDGE WORK

- スキルマップの4領域
 - QAエンジニアリング
 - Test Automation
 - 品質マネジメント
 - QAマネジメント

QAロールのスキルマップの抜粋

スキル領域	スキルアイテム	チェックポイント	難易度
QAエンジニアリング	IN スプリントQA業務	スプリント単位のテスト計画	中
		開発成果物のレビュー (MinipacやDD、Figmaのデザインなど)	低
		テスト設計 (TestDesignDocの作成、テスト設計レビュー)	中
		テストケース作成	低
		テスト実行とバグチケットの作成	低
	スプリント単位の改善	テスト環境構築	低
		テストプロセスの改善	中
		開発プロセスの改善	中
		バグマネジメント (優先度・Severityの合意形成、ダッシュボードからの改善提案など)	中
			低
Test Automation	E2E自動テストの実装	ローカル環境の構築	低
		GitHubフローの理解と実践	低
		テストスクリプト (テストコード) の実装	低
		テストスクリプト (テストコード) のレビュー	中
		テストスクリプト実装方針の設計と運用	高
	E2E自動テストのマネジメント	実行結果確認と調査	低
		E2E自動テストのカバレッジの設計と合意形成	中
		カバレッジ基準のマネジメント	中
		カバレッジ以外のメトリクスの設計と運用	高
			高
品質マネジメント	品質プロセス	品質プロセスの構築と設計	高
		品質プロセスの最適化と改善	高
		品質プロセスに応じた開発プロセスの改善	高
		DevOps単位の品質プロセスのマネジメント	中
			中
	品質指標	品質指標の設計と合意形成	高
		品質指標の実装 (データの収集の仕組み)	中
		品質指標の可視化 (例えば、ダッシュボードの設計・実装)	中
		品質指標からの改善提案	高
		バグのライフサイクルの設計と実装	中
バグマネジメント	バグの指標	改善提案の活用に基づくバグチケットのフィールドの設計と改善	高
		バグの指標の可視化 (例えば、バグダッシュボードの設計と実装)	中
		バグの指標からの改善提案	高
		スキルラダー設計と運用	高
		品質に関する教育	高
	品質文化の醸成・実装	QA・テストに関する教育	高
			高
			高
			高
			高
QAマネジメント	横断テストマネジメント	横断的なテストプロセス改善	中
		各チームドキュメントの標準化 (テンプレート作成など)	中
		テストリソースマネジメント	中
		新設プロダクトQA立ち上げ	中
		テストプロセス構築・設計と運用 (適切にプロセスを表現できること)	高
	組織マネジメント	テスト計画と運用 (テストスコープと人員リソース調整、有償リリースまでのテスト計画など)	高
		組織戦略立案 (中期計画やチーム条例など)	高
		採用戦略立案 (JD作成、スキルチェック設計など)	高
		採用活動 (リファラル、カジュアル面接、スキル面接)	高
		メンバーマネジメント (1on1や日報管理支援など)	中
チームマネジメント	チームマネジメント	チームマネジメント (チームOKR管理やチームMTG設計、チームビルディングなど)	高
			高
			高
			高
			高
	チームマネジメント		高
			高
			高
			高
			高

© Knowledge Work Inc.

9

出典: JaSST '24 Hokkaido 発表資料「QAロールのスキルアセスメントの試行とキャリアラダーの構築」

スキルアセスメントシート

_KNOWLEDGE WORK

● アセスメント: 習熟度

- 自分でできるかつサポートができる
- 自分でできる(サポートは不要)
- 自分でできる(サポートが必要)
- できない、もしくはやったことがない

スキルアセスメントシートの抜粋(スキルマップを包含する)

スキル領域	スキルアイテム/スキルタイプ	チェックポイント/スキルアイテム/スキル項目	難易度	習熟度
QAエンジニアリング	IN スプリントQA業務	スプリント単位のテスト計画	中	▼
		開発成果物のレビュー (MinispecやDD、Figmaのデザインなど)	低	▼
		テスト設計 (TestDesignDocの作成、テスト設計レビュー)	中	▼
		テストケース作成	低	▼
		テスト実行とバグチケットの作成	低	▼
		テスト環境構築 (資料の構築/連携セクションの(環境構築)がいているところ)	低	▼
		スプリント単位の改善	中	▼
		テストプロセスの改善	中	▼
		開発プロセスの改善	中	▼
		バグマネジメント (優先度・Severityの合意形成、ダッシュボードからの改善提案など)	中	▼
Test Automation	E2E自動テストの実装	ローカル環境の構築(e2eハンドブックのローカルでテストする場合までが対象)	低	▼
		Githubフローの理解と実践	低	▼
		テストスクリプト (テストコード) の実装	低	▼
		テストスクリプト (テストコード) のレビュー	中	▼
		テストスクリプト実装方針の設計と運用	高	▼
	E2E自動テストのマネジメント	実行結果確認と調査	低	▼
		E2E自動テストのカバレッジの設計と合意形成	中	▼
		カバレッジ基準のマネジメント	中	▼

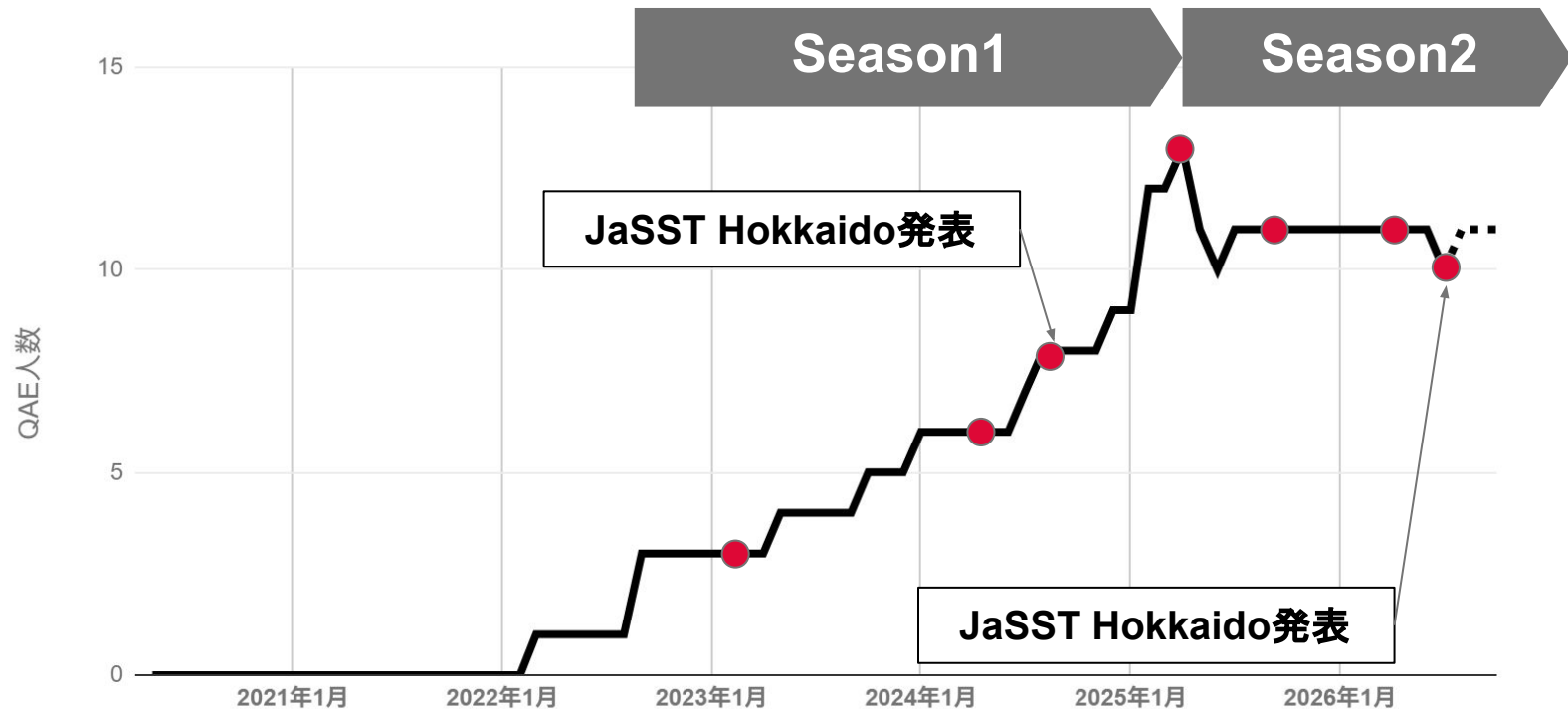
© Knowledge Work Inc.

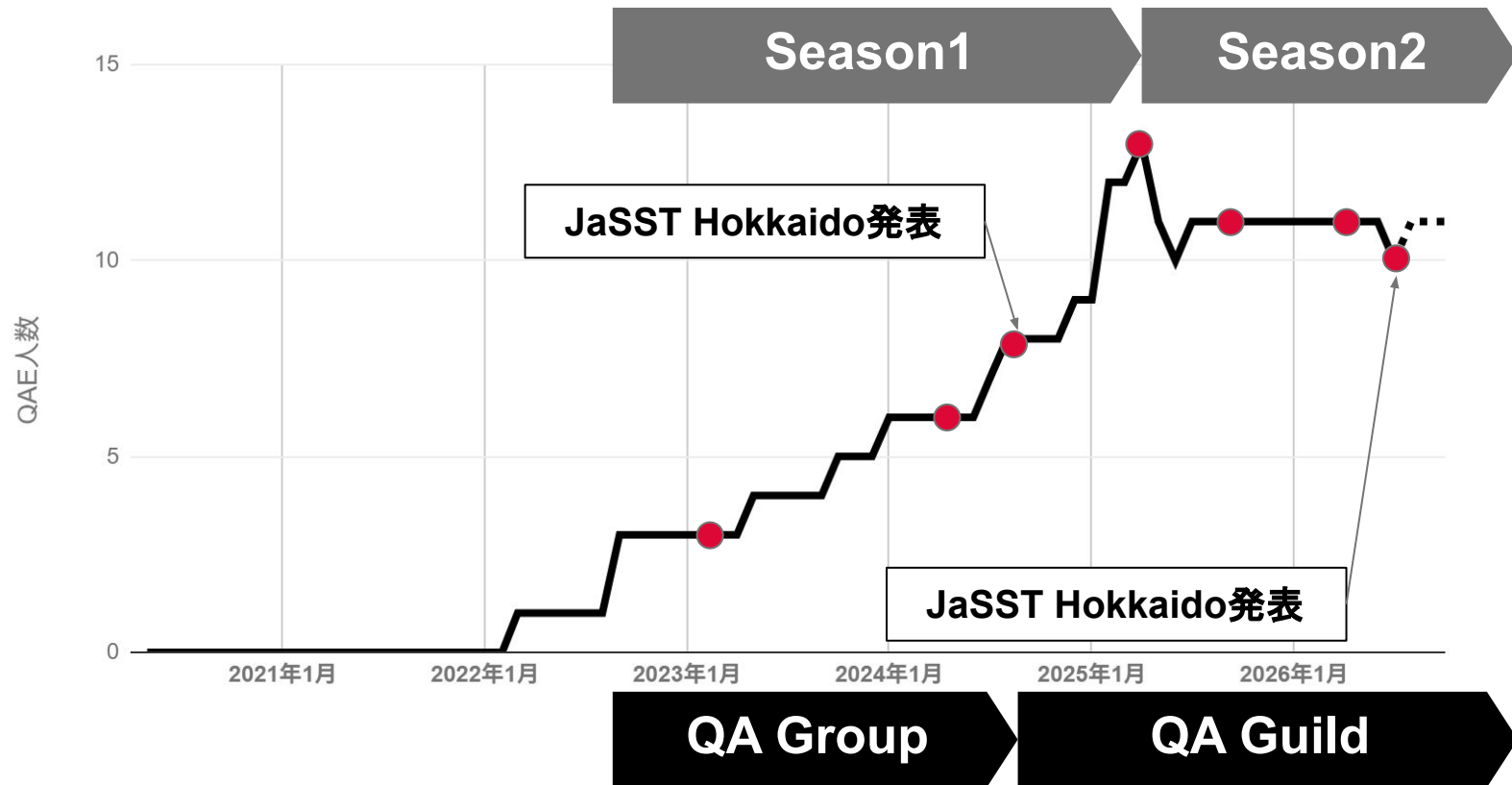
出典: JaSST '24 Hokkaido 発表資料「QAロールのスキルアセスメントの試行とキャリアラダーの構築」

- 4つの領域でスキルを体系的に定義
- それぞれの項目に難易度と習熟度を設定し、
自身のポジションを客観的に認識できるキャリアラダーを構築
- 導入直後のアンケートでは、
スキルの見える化や将来の見通しについて非常に高い有効性が確認

理想の制度としてスタートをきった

Season2:体制の変化と3つの壁



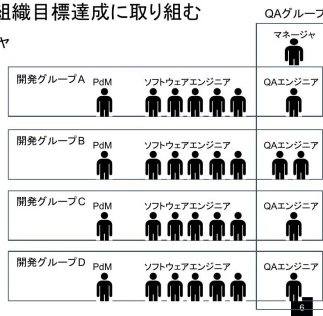


QA Group

QA組織の変遷:組織改編前

_KNOWLEDGE WORK

- QAEは開発グループの一員として従事するがQAグループに所属
 - 開発グループとQAグループの両方の組織目標達成に取り組む
 - レポートラインはQAグループのマネージャ
 - 開発グループは4グループ
 - 今後グループの拡大が予定されており組織課題が複雑化することが予想された



© Knowledge Work Inc.

QA Guild

QA組織の変遷:組織改編後すぐ

_KNOWLEDGE WORK

- QAEは開発グループに所属(QAEは7名)
 - 開発グループの組織目標のみにアラインする
 - レポートラインは開発グループのマネージャ
 - 結果的にGMはQA職以外の職能
- バーチャルなQA組織:
QA Guildを設立
QAEはそこに所属
 - QAIに従事する職能の集まり
 - 組織目標などは特に持たない



© Knowledge Work Inc.

出典:Tokyo Test Fest 2025 発表資料「バーチャルなQA組織の作り方とその実践事例」

QA Group

部署としての集まり

- 密な対話から同一の文脈を共有することが可能
- QA Groupとしての目標達成に取り組むチーム



QA Guild

強みで繋がる自発集団

- バーチャル組織としてのゆるやかな繋がり
- QAEとしての組織目標は持たない

運用の停滞

スキルアセスメントの目的を見失い、
共有会開催が約2か月間ストップ

評価基準の乖離

独立したコンテキストにより
習熟度の解釈が属人化

技術変化への未追従

スキルマップが
現場の技術進化に追いついていない

問題: 目的の乖離

- QAEが各プロダクトチームへ分散した結果、
アセスメント更新が"宿題"として義務化
- 組織目標ではないため、アセスメントの実施優先度が最下位に
- 個人の目標は評価と連動せず、共有すべき意味を見いだせない



**引き継いだ仕組みが
フェードアウトするかもしれない焦り**

- 前任者に相談
 - 「結果は評価と直接紐づけなくていい
ここから自分が伸ばしたいところや、
チームの課題が見つかることが本質」
 - 一度開催をして、フィードバックを得て改善
- 開催頻度も自分たちで決定

スキルアセスメントを

"宿題"から"未来のための対話ツール"へ意識を変革

スキルアセスメントを
💡 "自己評価ツール"から"接続基盤"へ 💡
再定義

問題: 分散体制によるコンテキストのサイロ化

- それぞれ独立したプロダクトチームで活動するため、
同じ習熟度をつけていても、習熟度にばらつきが出る
- 組織の全体像や技術の理想が見えているベテランほど、
自己評価を極端に厳しくつける傾向が顕在化



人によって目盛りが異なる
"歪んだものさし"を前にした困惑

- 自己評価の低いメンバーに習熟度変更の説得を試みる

- 熟練メンバー

他のケースには
対応できない

全体を把握している
わけではない

- 新規メンバー

だいぶわかってきた
気がする

なんとなく
できそう

- 他者と数値を単純比較して優劣をつけるためのものではない

"ものさし"を無理に揃える説得には意味がない

💡 "数値を揃える"ではなく
"変化"を見て"対話"を重視する
共有会へ



問題: 最新の挑戦がシート状に存在しない

- 現場ではAI活用が進んでいるが、
スキルマップには対象領域がない
- 正當に可視化・評価する項目がうまく作成できない



**猛スピードで変わる実務に、
定義が追いつかない不甲斐なさ**

- 運用の担当者だからすべて自分一人で更新すべき、という気負い
- 自分で書こうとするほど一般的な項目になり、
実務と乖離する懸念
 - ナレッジワークのQAスキルマップではなくなってしまう
- 「AI部分を更新する」と手を挙げてくれた
現場メンバーの存在があった

詳しい人に委ねて任せる決意

- 直近はAIに関する項目を追加
 - 追加したスキルアイテム
 - AIプロダクトのQA活動
 - QA業務へのAIの活用と改善

スキル領域	スキルアイテム／スキルタイプ	チェックポイント／スキルアイテム／スキル項目	難易度
AI x QA	AIプロダクトのQA活動	品質チェックリストの適用推進	中
		品質チェックリストの改善提案	高
AI x QA	QA業務へのAIの活用と改善	4つの主要なQA業務へのSkillの実践	低
		既存のSkillに対しての改善の実装と展開	中
		新規のSkillの実装と展開	高

今後も状況に合わせてアップデートが必要



半年ごとに全員で
スキルマップシート自体も
アップデート



- アセスメント更新率・共有会参加率 100%
 - 半年ごとに実施すると決めたことで、継続可能な体制に
 - 次回は2026年9月実施予定
- 人事評価とのゆるやかな接続
 - 各自が伸ばしたい強みを目標管理に自主的に紐づける
自律的な関係性

目標にプラスした "追加作業" からの解放

運用を継続するために

目的意識の置き場

組織の機会と個人のWillを
マッピングする能動的ツール

評価基準のブレ

対話を生む貴重なインプットとして
相互理解をするきっかけ

スキルマップの更新

最前線の実務知見をボトムアップで
随時更新

矢印をメンバー向きへ

個人のWillの実現やキャリア内省を
促すツール

ズレをエラーとしない

評価のズレをお互いのこだわりを
相互理解する対話のフックと捉え直す

継続的な更新

最前線の実務知見をボトムアップで
随時更新

- 完成だけを目指さない
 - 運用者が一人でルールを守らせる監視役にならない
 - 仕組みのアップデートはみんなで対応
- 評価と対話を切り離すことで統一
 - キャリア支援の対話に役割を絞ることで現在地を把握

**完璧な状態の維持ではなく、
現場を信頼し、変わり続けることをたのしむ**

"試される"から"試す"へ

一人ひとりが能動的に試す組織だからこそ、
"できる喜びが巡る日々"が動き出す

LIFE WITH ENABLEMENT

できる喜びが巡る日々を届ける